

小學  
宮本茂任著  
記事文例

全

5226

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

登錄 第	冊
社 科 學 門	
部	
校 法 綴 字	項
B29	次
71	冊
全 1	冊之内第 1
分 第	號
冊	5285

校學師師

書 門 綴

部 文

番

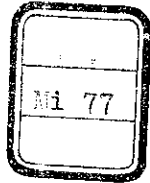
號

/ 冊之内

T1A1

11

Mi77



明治十一年五月出版

小學讀本例

福岡師範學校校長 橘公毅 閱  
同校講授 宮本茂任 著

福岡書肆 古賀鴻文堂 梓

志



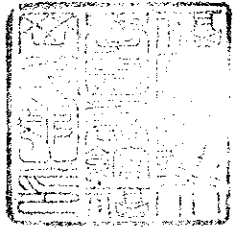
圖書 和圖書 遡



a 1380321233a

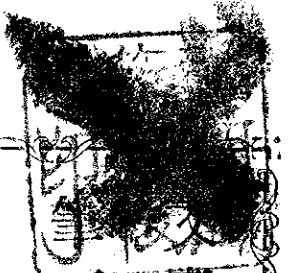
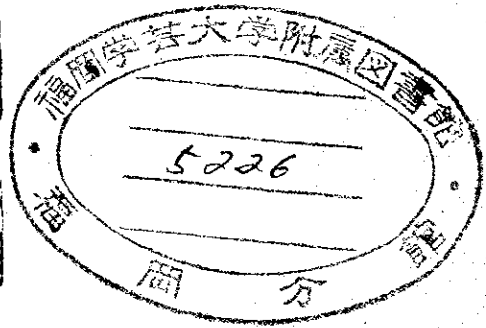
福岡教育大学蔵書

興



信

橋穀



者所以達意也而初學者常患意至而  
不至蓋童生作文不必高言放論且就  
其日間所親聞見者設之題目鋪叙點綴  
久而漸熟意之所至筆隨而至而後縱橫  
馳騁揮霍開闔何施而不可也福岡師範  
學校講授宮本君有紀事例之著凡一百  
五十餘題而事之細大文之雅俗皆具焉

初學者苟能潛心玩味得其要領則庶乎  
無復意至而筆不至之患也雖然文至于  
達意豈謂易事初學立志不可不高且遠  
而入手則自卑近始其斯所以有此著也  
歟

秋月後學 吉田利行撰

明治十一年第五月仲院

緒言

一 小學生徒作文ヲ學フニ先ツ物品ヲ題トス既ニ  
シテ紀事ニ及フ故其體裁混シテ名狀ス可ラサ  
ル者トナリ易シ須カラク是レヲ辨知スベシ  
一 物品ヲ題トスル者ハ凡ソ其物品ノ性用等ヲ沈  
叙ス例ヘハ

花

花ハ草木ニ發スル者ニシテ香色愛スヘキ多シ

孝子

孝子ハ善クニ親ニ事ヘ愛敬ヲ盡ス者ナリ  
ト云フガ如シ

一 紀事ハ遇フ所見ル所ノ一事ニ就テ切叙スル者ナリ例ヘハ

花ヲ看ルヲ紀ス

某山ノ花盛ナリト聞キ往テ之ヲ觀ルニ白櫻雲ノ如シ盡日賞シテ止マス

孝子ノ事ヲ紀ス

孝子某善ク二親ニ事ヘ侍養懈ヲス郷黨感化スル者多シト云フ類ナリ

記事文例第一目錄

第一

- 新年試筆ノ事ヲ記ス 一丁
- 嫩菜ヲ摘ム事ヲ記ス 同
- 孝明天皇ヲ遙拜スル事ヲ記ス 同
- 春ヲ待ツ事ヲ記ス 同
- 南溪梅ヲ探ルヲ記ス 二丁
- 祈年祭日記ス 同
- 立春ノ閑遊ヲ記ス 同
- 籠鶯ヲ放ツ事ヲ記ス 同
- 紙鳶ヲ放ツ戲ヲ記ス 三丁

- 菊ヲ種ル事ヲ記ス 同
- 麵條魚ヲ買フ事ヲ記ス 同
- 花下ノ宴ヲ記ス 同
- 雨中習字ノ事ヲ記ス 同
- 晩春友ニ別ル 四丁
- 初夏偶記 同
- 紅白梅ノ問答ヲ記ス 同
- 皇祖祭日唱ル所ヲ記ス 同
- 筍ヲ鬪ル事ヲ記ス 五丁
- 招魂社ニ謁スル事ヲ記ス 同
- 螢ヲ觀ルヲ記ス 同

- 山徑ヲ過ル事ヲ記ス 同
- 蓮ヲ觀ルヲ記ス 同
- 苦熱ヲ記ス 六丁
- 山家暑ヲ避ル事ヲ記ス 同
- 午睡ヲ記ス 同
- 水亭涼ヲ納ル、事ヲ記ス 同
- 早起ヲ記ス 同
- 冷麵ヲ喫スル事ヲ記ス 七丁
- 雨ニ逢フ喜ビヲ記ス 同
- 立秋ノ適意ヲ記ス 同
- 秋郊見ル所ヲ記ス 同

- 江樓月ヲ玩フヲ記ス 同
- 招魂社ノ角觥ヲ記ス 八丁
- 秋山菌ヲ採ルヲ記ス 同
- 砧ヲ聞ク事ヲ記ス 同
- 秋日漁家ニ過ル事ヲ記ス 同
- 菊ヲ觀ルヲ記ス 九丁
- 秋江別レヲ送ル 同
- 紅葉ヲ觀ルヲ記ス 同
- 秋江魚ヲ釣ルヲ記ス 同
- 晚春感ヲ書ス 十丁
- 初冬古戰場ヲ過ルヲ記ス 同

- 山僧ヲ訪フ事ヲ記ス 同
- 薪ヲ拾フ事ヲ記ス 同
- 松ヲ觀ル事ヲ記ス 同
- 寒山行旅ヲ記ス 十一丁
- 天長節記ス 同
- 寒港舟ヲ泊スル事ヲ記ス 同
- 鳥ヲ捕ル事ヲ記ス 同
- 寒夜偶記 十二丁
- 寒夜史ヲ讀ム事ヲ記ス 同
- 冬郊見ル所ヲ記ス 同
- 暄ヲ負フ適ヲ記ス 同

- 老師ヲ訪フ事ヲ記ス 同
- 歳杪市ニ過ル事ヲ記ス 十三丁
- 雪朝ノ事ヲ記ス 同
- 雪塊ヲ轉スル事ヲ記ス 同

第二

- 郷社ニ賽スル事ヲ記ス 十四丁
- 家翁栽培ノ事ヲ記ス 同
- 二生徒轉輪ノ戲ヲ記ス 同
- 筆ヲ買フ事ヲ記ス 同
- 嬰兒ヲ教フル事ヲ記ス 十五丁
- 鄰翁八十壽筵ノ狀ヲ記ス 同

- 親族ノ男ヲ舉ル事ヲ記ス 同
- 阿母ノ誠ヲ記ス 同
- 免証函ニ書ス 十六丁
- 骨董鋪ニ過ル事ヲ記ス 同
- 二盲ノ争ヒヲ和解スル事ヲ記ス 同
- 叔父ヲ訪フ事ヲ記ス 同
- 諸友ニ留別ス 十七丁
- 劇場ノ事ヲ記ス 同
- 土宜ヲ買フ事ヲ記ス 同
- 小弟ノ爲赤本ヲ説ク事ヲ記ス 同
- 友人ヲ送別ス 十八丁



第三

- 小學生徒勉吉ノ事ヲ記ス 同
- 善書人墨軒ノ事ヲ記ス 同
- 農父力藏ノ事ヲ記ス 十九丁
- 教師良太郎ノ事ヲ記ス 同
- 商人節藏ノ事ヲ記ス 同
- 說教師清太郎事ヲ記ス 同
- 英兒敏吉ノ事ヲ記ス 二十丁
- 門地ニ誇ル者ノ事ヲ記ス 同
- 妻ヲ畏ル者ノ事ヲ記ス 廿一丁
- 算師ノ事ヲ記ス 同

- 詩人ノ事ヲ記ス 同
- 烟艸ヲ好ム者ノ事ヲ記ス 同
- 蛛ヲ畏ル者ノ事ヲ記ス 同
- 花ヲ插ム者ノ事ヲ記ス 廿二丁
- 歌人ノ事ヲ記ス 同
- 優人雛助ノ事ヲ記ス 同
- 車夫ノ事ヲ記ス 同
- 校童ノ事ヲ記ス 廿三丁
- 舊乞人ノ事ヲ記ス 同
- 力人芳野川ノ事ヲ記ス 同
- 養ヲ春ク者ノ事ヲ記ス 同

- 勇士ノ事ヲ記ス 廿四丁
- 良將ノ事ヲ記ス 同
- 多力ニ誇ル者ノ事ヲ記ス 同
- 百歳翁ノ事ヲ記ス 同
- 酒徒ノ事ヲ記ス 同
- 好事家ノ事ヲ記ス 廿五丁
- 盜賊ノ事ヲ記ス 同
- 貞婦ノ事ヲ記ス 同
- 義僕ノ事ヲ記ス 廿六丁
- 孝子ノ事ヲ記ス 同

第四

- 仁徳天皇ノ事ヲ記ス 廿七丁
- 鎌足公ノ事ヲ記ス 同
- 源義家朝臣ノ事ヲ記ス 同
- 楠正成朝臣ノ事ヲ記ス 同
- 豊臣秀吉公ノ事ヲ記ス 廿八丁
- 貝原篤信ノ事ヲ記ス 同
- 牛董ノ事ヲ記ス 同
- 日納爾ノ事ヲ記ス 同
- 翁媪ノ事ヲ記ス 廿九丁
- 桃太郎ノ事ヲ記ス 同

小 説 文 例

宮 本 茂 任 著

此部四季ニ分ツテ各其題ヲ設ク花  
 ヲ看月ヲ玩ヒ暑ヲ畏レ寒ヲ厭フ皆  
 紀シテ文トス紀遊ニ涉ルモノ叙別  
 ニ屬スルモノ各其體ヲ得ンコトヲ  
 要ス

○新年試筆ノ事ヲ紀ス

戊寅元旦大筆ヲ把リ梅柳ノ二大字ヲ作ル余ノ謹  
 ミ甚シ傍人其故ヲ問フ答ヘテ曰ク今日ノ體ミハ  
 一年謹ミノ始也

〔體ハ謹ノ誤〕

○嫩茶ヲ摘ム事ヲ紀ス

新歲野外ニ出テ殘雪ヲ拂ツテ嫩茶ヲ摘ム雅遊ノ始復餘寒ヲ厭ハス

○孝明天皇ヲ遙拜スルヲ紀ス〔祭文ニ據ス〕

孝明天皇ノ盛祭日東向シ手ヲ拍テ遙拜シテ曰ク尊ク嚴カナル孝明天皇王政一新ノ聖慮アリテ中道登遐シマセリ今上天皇繼述怠リマサス鴻業成就セリ艸莽ノ遺臣肅敬シテ盛徳ノ餘光ヲ拜ス

○春ヲ待ツ事ヲ紀ス

此頃雨雪多ク出校ノ路泥濘深ク行歩ニ艱ム偏ニ待ツ春晴ノ節至リ此艱ニ無キヲ

○南溪梅ヲ探ルヲ紀ス

一日天晴レ日暄カナリ往テ梅ヲ南溪ニ探ル忽清香ノ水ヲ渡リ來ルアリ諦觀スレハ數枝粲然トシテ翠竹ノ間ニ開ケリ

○祈年祭ノ日記ス

此日朝廷祈年祭ノ日タリ想フニ今也幣ヲ班ツ時ナラン王政維新ヨリ今ニ至ルマテ禾穀豐饒ナラサルナシ益此祭典ノ勸タリ鼓腹ノ餘聊喜ヒテ誌ス

○立春ノ閑遊ヲ紀ス

東風習々淡靄間茫ニ問ハスシテ立春タルヲ知ル

一二ノ友ト野徑ニ遊ヒ一橋畔ニ至ル梅花上ニ黃  
鶯ノ嚶々タルアリ蓋鳥ノ幽谷ヲ出ル我ノ矮室ヲ  
出ル俱ニ春意ヲ喜フ也

○籠鶯ヲ放ツ事ヲ紀ス

余溪村ニ遊ヒ鶯雛ヲ捕ヘ得タリ即持テ歸リ籠ニ  
飼養シ春聲ヲ弄セント欲ス一老人見テ誠メテ曰  
ク造物主ノ萬物ニ於ケル人獸ハ地上ニ行步セシ  
メ魚鱉ハ水中ニ游泳セシメ而シテ禽鳥ハ山林ニ  
飛翔セシム皆自由ノ境ヲ與フル也今汝此鳥ヲ捕  
ヘ一籠ニ入ル、何ソ無狀ナル余悦ヒ從ヒ鶯ヲ放  
テ且紀シテ以テ警ム

○紙鳶ヲ放ツ事ヲ紀ス

春風徐々トシテ來ル因テ紙鳶ヲ放ツニ翩々トシ  
テ雲表ニ颺レリ唯雷雨ノ候ニ非レハ越歴ノ傳ル  
ナシ

○菊ヲ種ル事ヲ紀ス

近隣ニ菊ヲ好ム雙アリ余ニ數種ノ菊苗ヲ與フ每  
種名牌ヲ付ス余前庭ヲ墾破シテ之ヲ栽ユ其初雪  
ト名ツクル者ハ余其白キヲ知ル猩々ト名ツクル  
者ハ余其赤キヲ知ル金簾ト名ツクル者東京染ト  
名ツクル者余其黃且紫ナルヲ知ル秋花ノ日美シ  
キト美シカラサルトハ培養ノ如何ンニ在ノミ

○ 麵條魚ヲ買フ事ヲ紀ス

桃紅李白ノ俟、麵條魚梁ヲ花下ノ流ニ設ケリ買テ  
一盞ニ入レ歸ル獨花香ノ薰然タルヲ覺ユ

○ 花下ノ宴ヲ紀ス

友人我庭ノ櫻盛ニ開クト聞キ酒樽ヲ携ヘ來ル余  
喜ンテ花蔭ニ導キ宴ヲ開ク時ニ天氣和暖恰モ人  
體ニ適シ花香馥郁トシテ杯ニ浮ヒ來ル吟酌互ニ  
酬ヒ復夕陽ノ傾クヲ知ラス

○ 雨中習字スル事ヲ紀ス

余出遊セント欲スルニ會、春雨濛々タリ乃テ字帖  
出シ肄習スルコト數百字是レ春雨ノ賜ナリ

○ 晚春友ニ別ル

三春將ニ晚ントシ揚柳垂々タリ此時ニ當リ余友  
笈ヲ負ヒ春川先生ノ門ニ遊フ余酒ヲ載セ都外ニ  
送り酌テ餞シ尙柳絲ノ客衣ヲ繫キ留メサルヲ恨  
ム

○ 初夏偶紀ス

春去リ夏來リ薰風窓ニ入り新竹青々タリ余輩小  
學校ヨリ歸リ來ルニ日暮ノ殘レル猶一事ヲ營ル  
ニ足レリ是レ亦適意ノ事毫ヲ把テ偶紀ス

○ 紅白梅ノ問答ヲ紀ス 寓言

庭上ニ紅白二株ノ梅アリテ黃熟ノ期至レリ是ヨ

リ先キ花ヲ看ル時紅ナル者嘩々トシテ人ニ嘉賞  
セラル輒々傲々トシテ白ナル者ニ謂フ汝ノ顔色  
ナキ一人ノ顧ルナシ開カサルノ愈レルニ若カス  
白ナル者答ヘス獨清香ノ郁々タル相讓ラサルノ  
ミ是ニ至リテ白ナル者實ヲ結フ累々トシテ紅ナ  
ル者然ル能ハス縮々トシテ身ヲ容ル、ニ地ナキ  
カ如シ

○皇祖祭日唱ナル所ヲ紀ス祭文ヲ撰ス  
維レ神維レ聖ナル皇祖ノ盛德我輩ノ瑞穂ノ國ニ  
住ミ暖衣飽食シテ一生ヲ過クル其源ヲ尋ルニ竟  
ニ是レ誰ノ力ソ遙ニ皇祖ノ靈ヲ肅拜ス

○笥ヲ鬪ル事ヲ紀ス

余園ニ篋アリ阿父ノ少キ時裁ル所ナリ笥ノ生セ  
ントスル時鑑ヲ携ヘ之ヲ鬪ル數多ノ壘籠孫ヲ獲  
ル昔人ハ親ノ爲ニ笥ヲホル今我ハ親ノ種ル笥ヲ  
鬪ル余ノ幸亦大ナリ

○招魂社ニ謁スル事ヲ紀ス

箱崎招魂社松林中ニ在リ祭祀ノ日來謁スル者群  
ヲ成ス老翁一拜シ去ント欲スレトモ能ハサルア  
リ婦人跪拜シ喃々トシテ唱フル所アリ感涙シテ  
止ム能ハス蓋是皆王事ニ死スル者ノ遺族ナリ之  
ヲ見ル者憐恤シテ禁ル能ハス

○螢ヲ觀ルヲ紀ス

溪村ノ人一使ヲ遣リ螢火ノ候ヲ告ク即往テ觀ル  
溪間ニ一川アリ万點ノ螢火亂レ飛フ川水爲ニ光  
ヲ生ス極メテ美觀トス

○山徑ヲ過クル事ヲ紀ス

余山徑ヲ過キ懸崖ノ下ヲ瞰ムニ平々タル地アリ  
瓜ヲ種エ茄ヲ種エタリ憶ヒ起ス野歌ニ高山ヨリ  
谷底視レハ瓜ヤ茄子ノ花盛リト云フ是其眞景也

○蓮ヲ觀ル事ヲ紀ス

余友人ト蓮花ヲ某池ニ觀ル一店ニ就テ酒瓢ヲ傾  
ケ正午ニ至リ飯ヲ命ス店婦竈ニ對ヒ炊ク頃之ヲ

リテ飯ヲ捧ケ出レハ茶芳人ヲ襲フ即蓮葉飯也聞  
ク是レ東京不忍池ノ名産タリト此地ニシテ之ヲ  
喫ス亦一快事ナリ

○苦熱ヲ紀ス

暑日赫々トシテ微風猶來ラス樹陰ニ就ケトモ汗  
ノ流ル、雨ノ如シ然レトモ是正午ノ間ノミ且ツ  
忍ンテ暮ヲ待ン耳

○山家暑ヲ避クル事ヲ紀ス

青松蒼々トシテ前庭ヲ掩ヒ前溪ニ清泉アリテ回  
岩ニ觸レ飛散スルユト雪華ノ如シ山家ノ景此ノ  
如シ親友兩三名ト暑ヲ此ニ避ケ書史ヲ論シ古今



ヲ譚シ復炎熱ノ何クニ在ルヲ知ラス

○午睡スル事ヲ紀ス

既ニ午飯ヲ喫シ椅子ニ倚テ睡ル時ニ檐間ノ風鐸  
鏘然トシテ聲アリ

○水亭涼ヲ納ル、ヲ紀ス

一夕水亭ニ獨坐シ涼ヲ納ル時ニ皎月庭松ノ梢ニ  
昇リ清影池水ニ印シ游魚唼嚼シ玉ヲ吞ム狀アリ  
會、甜瓜ヲ贈ル者アリテ池水ニ浮ヘタルヲ揚ケ剖  
テ喫スルニ涼味齒牙間ニ溢ル近來此適意ノ事ヲ  
シ因テ紀ス

○早起ヲ紀ス

拍鳴鐘五時ヲ報シ蹶然トシテ起ク時ニ見ル竹籬  
玉露ヲ帶ヒ牽牛花競ヒ開キ輕麗愛ス可キヲ

○冷麵ヲ喫スルヲ紀ス

赤日ノ下ヲ行クコト數里足ヲ進ムルニ力ヲカラ  
ントスルニ偶、舊識ノ門前ニ至レリ乃入リテ休憩  
ス頃之アリテ主人索麵ヲ供ス之ヲ喫スル一椀ニ  
シテ既ニ口舌ノ温ヲ消シ二椀ニシテ胸腹ノ熱ヲ  
去リ三椀ニ及ンテ全身ノ涼シキ秋風ノ袖ヲ吹ク  
ヲ覺ユ主人ノ厚意謝スル所ヲ知ス

○雨ヲ喜フヲ紀ス

連旬雨ヲラス乾沙冥々トシテ炎熱ノ甚シキ殆ト

耐へサラントス一日南風急雨ヲ吹キ來リ檐ヲ繞  
リテ琴筑ノ聲ヲ聞ク快キ哉快キ哉

○立秋ノ適意ヲ紀ス

曉夢初テ覺ル時一陣ノ疎雨過キ去リ俄然涼氣來  
リ襲フアリ曆ヲ檢スレハ是レ立秋ノ日也此夏炎  
暑他年ニ比スレハ殊ニ酷ナリレガ今日回顧スレ  
ハ誠ニ隔世ノ想ヲ成ス豈ニ愉快ナラズ耶

○秋郊見ル所ヲ紀ス

万畝ノ稻花衣袖ニ薰シ豐熟ノ狀ヲ顯ス時ニ新涼  
既ニ至リ殊ニ散步スルニ宜シ

○江樓月ヲ玩フヲ紀ス

團々タル明月東峯ニ上リ一江ノ面金波漾々タリ  
二三ノ友ト酒ヲ樓上ニ酌ミ陶然トシテ酔フ時ニ  
前村ニ笛ヲ吹ク者アリ餘音響亮トシテ聞ユ余輩  
ノ爲ニ一段ノ興ヲ添フ

○招魂社ノ角觥ヲ紀ス

招魂社秋祭ノ日角觥ノ戲アリ東西ノ力人狀貌魁  
梧双々場ニ上ル一龍一虎孰レカ勝テ孰レカ負ク  
ト看官手ニ汗ス一喝ノ間勝負決シテ行司ノ團扇  
高ク揚リ扇采ノ聲久シテ止マズ此社齋フ所ノ神  
勤王ノ強キ者ナレハ必歌舞ヲ喜ハスシテ此勇力  
ノ事ヲ賞セン宜ヘナリ角觥ノ獻アルコト

○秋山菌ヲ探ルヲ紀ス

秋雨初テ晴レ松簞定メテ生セント山谿ニ入レハ  
果然トシテ數十莖ヲ獲タリ余ノ喜知ヌ可シ

○碯ヲ聞クヲ紀ス

新霜初テ降り西風木葉ヲ翻ヘス余將ニ寢ニ就ン  
トスルニ忽<sub>レ</sub>丁<sub>東</sub>タル杵聲ヲ聞ク是レ里婦ノ澣濯  
衣ヲ搗ツ也是ノ如ク深更ニ搗ツハ晚飯ノ時ニ後  
レタル歎抑々嬰兒ヲ眠ヲ熟セシメシ歎貧家ノ營  
ミ憐ム可キ耳

○秋日漁家ニ過ルヲ紀ス

偶然杖ヲ曳キ漁家ニ至ルニ老翁巨口細鱗ヲ捕ヘ

得タリ即之ヲ買テ歸ル時ニ江渚ノ紅蓼花正ニ開  
ケリ

○菊ヲ觀ル事ヲ紀ス

秋風漸ク冷カニ新霜又降ル籬邊ノ菊花是ニ於テ  
爭ヒ開ク其皎々トシテ純白ナルハ初雪ナリ赫々  
トシテ濃紅ナルハ猩々ナリ黃ニシテ光采アル者  
ハ金簾ニシテ紫ニシテ妖艷ナル者ハ東京染ナリ  
各々其名ニ應シテ其色ヲ顯ハス傳フ此花千年ノ  
齡ヲ延フト是レ道フニ足ラサル事ト雖トモ此花  
ノ美ヲ玩フ亦健康ヲ資クルニ足レリ

○秋海別レヲ送ル

友人將ニ米國ニ赴ント纜ヲ秋海ニ解ク羨ム君落  
機ノ山月ヲ望ン歟抑墨西哥ノ水月ヲ玩ン歟

○紅葉ヲ觀ルヲ紀ス

三秋漸ク暮レ肅霜肌ニ切ナリ是レ紅葉ノ侯ナル  
ヲ知り往テ某ノ山ニ遊フ霜氣ノ染ル所果シテ綿  
繡ノ林ヲ成シ人ノ眉目ヲ炫耀ス車ヲ停メ戀賞ス  
ルコト久シ唐人ノ霜葉紅<sup>干</sup>二月花ト云フ誠ニ我  
ヲ欺カス

○秋江魚ヲ釣ル事ヲ紀ス

一友余ニ語りテ曰ク昨日釣ヲ垂レシニ獲ルコト  
甚多ク籃ニ盈テ歸レリ余之ヲ羨ミ此日蚤ニ起キ

竿ヲ携ヘ往テ釣ルニ天晴レ風起リ一モ獲ル所ナ  
シ蓋シ人ノ幸福ヲ羨ミ之ヲ傲フ者率テ此類ナリ

○晚秋感ヲ書ス

菊花萎ミ楓葉衰ヘ三秋將ニ盡ントス余學進ミ難  
フシテ光陰ノ速ナル誠ニ感慨スルニ堪ヘタリ

○初冬古戰場ヲ過クルヲ紀ス

該村ノ外ニ一山アリ城山ト稱ス傳フ往昔誰某ノ  
居リシ所也ト一日登リテ故墟ヲ探ルニ殘瓦遺礎  
ニ論ナレ壁壘ノ壞敗スル者亦存セリ小丘アリテ  
一角崩レ白骨ヲ露セリ時正ニ初冬木葉盡ク脫レ  
夕陽蕭條トシテ晚風身ニ冷カニ久シク留ル能ハ

ス遂ニ舊路ヲ尋テテ歸ル

○ 山僧ヲ訪フ事ヲ紀ス

舊識ノ山僧ヲ訪ヒ閑話夜ニ入り遂ニ投宿ス寒月  
紙窓ヲ照シ狐ノ聲近ク聞ヘ三更ヲ過ルマテ眠ヲ  
成サス

○ 薪ヲ拾フ事ヲ紀ス

余村鬻ノ門塾ニ寓シ慈師ニ親炙ス數名ノ友ト番  
ヲ結ヒ飯ヲ炊ク此日共ニ山林ニ入り柴薪ヲ拾フ  
暴風ノ後ナルヲ以テ枯枝ノ斷エ落ル甚タ多ク須  
臾ニ數擔ヲ得テ歸ル

○ 松ヲ觀ルヲ紀ス

寒郊寂莫トシテ花ナク紅葉ナシ唯一樹ノ青松高  
ク聳ユ直幹ノ亭亭タル真ニ大丈夫ノ氣象也

○ 寒山行旅ヲ紀ス

十二月廿日箱根山ヲ過ク此行遊學タルヲ以テ敢  
テ人力車ヲ僦ハス苾鞋竹杖蕭條トシテ曉霜ヲ踏  
ミ双脚凍エ指ヲ墜サントス林梢ヨリ吹キ落ル風  
殆ント面ヲ裂クカ如シ然リト雖人生ノ苦此ニ止  
ラズ况ヤ男兒ノ爲ル事有ント欲スル者豈ニ寒山  
ノ行歩ヲ艱シトセン耶聊カ紀シテ他日ノ自警ニ  
供ス

○ 天長節紀ス

此處ニモ聖齡万歳ナレ彼處ニモ聖齡万歳ナレ夫  
レ王政維新ヨリ風雨和順禾穀豐熟スル實ニ賜ヲ  
蒙ルコト優渥也宜ナリ万歳ノ聲聞港ニ滿ル

○寒港舟ヲ泊スル事ヲ紀ス

寒夜客舟ヲ浪華ノ港ニ泊ス寒潮ノ舷ヲ打ツ聲枕  
上ニ響キ半夜ヲ過クルマデ眠ル能ハス

○鳥ヲ捕ル事ヲ紀ス

後園ニ綠樹多ク小禽群集ス余一篠ヲ地ニ植テ篠  
頭ヨリ纒ヲ下シテ弓ノ如クシ纒末ニ機ヲ設ケ紅  
熟ノ菓實ヲ撒シテ餌トス小禽來リ食ハント欲ス  
レバ機動キ脱スル能ハス一日ノ獲ル所數十頭ニ

及ペリ

○寒夜偶記

閑座書ヲ讀ミ夜漸ク深シ時ニ爐中ノ火紅熾シ茶  
鏝沸々トシテ聲アリ亦一適意ナリ

○寒夜史ヲ讀ム事ヲ紀ス

一夜卓子ニ向ヒ翻譯洋史ヲ閱ス深更蕭瑟トシテ  
燈影動カス窓ヲ啓ケハ積雪數尺ニ及ヘリ獨語シ  
テ曰ク孰レカ此雪ヲ深シト云フ拿破翁墨斯科ノ  
恨ハ此雪ノ深キ比ニ非シ英雄ノ事百年ノ後マデ  
人ヲシテ感慨セシムト扼腕スルコト久シ

○冬郊見ル所ヲ紀ス

余山村ヨリ歸ル野徑ニシテ婦女ノ油菜ヲ種ルヲ見ル隴畝ノ凍ヲ踏ム聲アリ之ヲ見ル猶凜然タリ

○ 暄ヲ負フ事ヲ紀ス

晴窓ノ下ニ獨座シ背ヲ冬日ノ暄カナルニ曝ス體軀悠暢ニ心思和適シ天下復何ノ快事アリテ此レニ代フ可キ是レ芹ヲ食フト同ク野人ノ得意ニシテ宜ヘナリ王公ニ獻セント欲セシ事

○ 老師ヲ訪フ事ヲ紀ス

連朝ノ嚴霜幼稚ノ身スヲ寒ニ苦ム因テ老師ヲ思ヒ往テ訪ヘハ苙鞋ヲ踏ミ他出セントセリ何ソ強健ノ甚シキ余輩愧ルコトアリ

○ 歲杪市ニ過ル事ヲ紀ス

一歲將ニ盡ントスレハ市街漸ク喧鬧トナル余往テ布帛店ニ入り買フ處アラント欲ス一人來リ老父ノ爲ニ藍青ノ衣料ヲ買フ一人來リ幼兒ノ爲ニ紅紋ノ服料ヲ買フ二八ノ一婦來リ輒ク買處ヲ言ハス店主問テ曰ク華ナル者歟質ナル者歟幾齡ナル人ノ用ヰル所歟婦人羞澁シテ曰ク二十左右男子ノ用ヰル所タリト多情知ヌ可シ

○ 雪朝ノ事ヲ記ス

銀ヲ敷クト云ン歟玉ヲ積ムト云ン歟一目ノ望ム所皎々タラサル莫シ杯ヲ呼ビ閑酌シテ此朝ノ雪

ヲ賞ス窮冬ノ一興タリ

○雪塊ヲ轉スル事ヲ記ス  
千家皆瓊樓トナリ万林盡ク玉樹トナリ一望ノ中  
白雪タラサル莫シ友人ト庭ニ下リ一塊ヲ取リ轉  
シテ圓體ト成ス友人其兩端ニ點シテ曰ク南北極  
也余其腰ヲ環ラシ線ヲ畫シテ曰ク赤道也遂ニ數  
處ニ畫シテ曰ク歐洲也曰ク米國也ト既ニ了リ俱  
ニ手ヲ拍テ曰ク宛然タル一大地球儀也ト自贊ス  
ルコト久シ

紀事例第二

此部ノ出ス所ニ倣ヒ日間經歷スル  
一苦一樂一得一失紀シテ以テ日記  
ニ代フベシ況ヤ他日ノ勸懲トスベ  
キ事必ス紀シテ散佚セシムルコト  
勿レ

○郷社ニ賽スル事ヲ紀ス  
郷社ニ賽シ神功皇后征韓ノ畫額ヲ觀ル我兵艦突  
進シ波勢騰湧シ虜兵乱レ遁ル、ニ暇ラス極メテ  
愉快ナリトス

○家翁栽培ノ事ヲ紀ス



家翁栽培ヲ好ミ綠樹ノ蒼々タル青艸ノ蒼々タル人目ヲ慰ス可ク春花秋芳ノ時千紅万紫爛然トシテ戀賞ス可シ但シ牽牛花ノ類蔓生ノモノヲ喜ハス蓋シ艸木ノ無情ナルモ亦地上ノ生物タルハ人類ト同シ而テ蔓生ノ物竹樹ノ力ニ委托シテ自立スル能ハサルヲ賤ム也

○ 二生徒轉輪ノ戯ヲ紀ス

學校休業時間二兒競テ輪ヲ轉シテ戯ル一兒ノ曰ク好體操ナリ一兒ノ曰ク運動力ヲ曉ルヘシ

○ 筆ヲ買フ事ヲ紀ス

筆商學校ニ來リ毛錐ヲ買フ我輩ノ前ニ陳シテ曰

少柔毛ナルハ是レナリ勁毛ナルハ是レナリ是レハ大字ニ宜シ是レハ細字ニ宜シ艸書ニハ此毫ヲ佳トス楷書ニハ此毫ヲ佳トスト余ハ菱湖先生處用ト思シタル者二管ヲ買フ

○ 兒ヲ教フル事ヲ紀ス

婦人兒ヲ抱キ圓顛天天ト云ヘハ兒手ヲ以テ圓顛ヲ拍ツ是レ圓顛ノ向フ處即天ナルヲ教フル也

○ 隣翁八十壽筵ノ狀ヲ紀ス

壽詞ヲ撰ス  
松風翁華康八十タリ令嗣諸子壽杯ヲ獻ス時ニ春初ニシテ庭上ノ松樹蒼鬱トシテ烟靄ヲ帶ヒ千秋ノ色ヲ呈ス幼孫ノ堂上ニ周旋スルハ宛然トシテ

遊龜ノ戯ル、也女孫ノ聲ヲ齋フシ唱歌スルハ宛然トシテ舞鶴ノ鳴也余嘉賓ノ末列ニ待ルヲ以テ聊カ見ル處ヲ紀ス

○親族ニ男ヲ舉クル事ヲ紀ス

親族ノ家竊熊夢ニ入り一男ヲ舉ケリ余往テ賀スルニ骨格強壯泣ク聲嗶々タリ竊ニ喜フ我一門ノ光榮ヲ生スルヲ

○阿母ノ誠ヲ紀ス

阿母手ニ紡車ヲ轉シ旁ヲ余ガ小學讀本ヲ復讀スルヲ聽ク余阿母ノ便ニ起ツテ伺ヒ謾然トシテ畫ヲ作ル阿母坐ニ復シ叱シテ曰ク汝學士タラント

欲スル歎勤ヲ復讀セヨ抑、畫エタラント欲スル歎汝ガ筆ヲ弄フニ任ス

○免証函ニ書ス

下等小學免証八級ヨリ一級ニ至ルマデ凡ソ八葉收メテ此函ニ在リ今ヨリ上等科ヲ勤メ亦每級ノ免証ヲ得テ此函ニ収メント欲ス

○骨董舖ニ過ル事ヲ紀ス

一日閑ニ乘シ從容トシテ市街ニ出テ骨董舖ニ過ル一古鏡ヲ問ヘハ是レ小野小町ノ遺器ナリ一茶器ヲ問ヘハ是レ千利休ノ手製ナリト曰ヘリ眼鏡アリテ隻眼ハ硝子ヲ嵌ミ隻眼ハ紙ヲ以テ掩ヘリ

之ヲ問へハ是レ山本勘助ノ敵ヲ伺ヒシ物ナリト云へリ

○二盲ノ争ヒヲ和解スル事ヲ紀ス  
老盲畫幅ヲ展ヘテ曰ク此畫ノ妙天下比ナシ少盲亦一幅ヲ展ヘテ曰ク此畫ノ奇ナルニ若カズ老盲曰ク否少盲曰ク否終ニ相擲ント欲ス余笑ヲ忍テ之ヲ和解シ事終ニ平グ

○叔父ヲ訪フ事ヲ紀ス  
余叔父老タリ而シテ其家山ヲ隔テ數里外ニ在ルヲ以テ數々訪フヲ得ス頃日手漁シテ鯽魚數十頭ヲ獲タリ即往テ之ヲ呈ス叔父喜ヒ甚シ繼テ一文

ヲ觀ニ供シ曰ク是レ檢査ニ應シ優等ト稱セラレタル文也叔父一閱シ掌ヲ拍テ曰ク善ク作レリ我汝ノ佳文ヲ觀ル鯽魚ノ贈モノニ勝レリ今ヨリ猶勉勵シテ懈ルコト勿レト既ニ歸リ紀シテ筐中ニ存ス

○諸友ニ留別ス  
余將ニ東京ニ遊學セントス一夜諸友來リ餞シ皆佳文ヲ贈ル或ハ遊蕩ヲ戒メ或ハ驕謾ヲ戒メ而シテ怠惰ヲ戒ル者尤多ク讜々タル直言皆喜フ可シ

○劇場ノ事ヲ紀ス  
余事ニ因テ縣治ノ下ニ到ルニ治外ニ劇場ヲ開ケ

リ入りテ觀レハ伊賀越ナル者也優人ノ巧ナル喜  
フ可キ悲ムヘキ驚クヘキ笑フヘキ各々其態ヲ竭  
シ看官ヲシテ倦マサラシム唐木政右衛門ノ勇ニ  
シテ義氣アル如キ殆ント人ヲシテ感發スル所ア  
ラシム

○土宜ヲ買フ事ヲ紀ス

余縣治ヨリ歸ル幼弟ノ爲ニ土宜トセント地球儀  
ヲ購ヒ得テ從奴ニ持タシム奴力ヲ勵シ之ヲ擧ク  
ルニ甚タ輕シ曰ク豈ニ圖ンヤ五大洲ノ此ノ如ク  
輕カラントハ

○小弟ノ爲ニ赤本ヲ説ク事ヲ紀ス

小弟年甫テ三歳余爲ニ剪舌雀ノ事ヲ説キ畫ヲ指  
サシテ曰ク是レ寡欲叟ノ寶貨ヲ獲テ歸ル圖也又  
指サシテ曰ク是レ多欲媼ノ鬼虺ヲ獲テ驚懼スル  
圖也ト小弟耳ヲ傾ケテ之ヲ聽キ曉ル所アル者ノ  
如シ

○友ニ別ル、ヲ紀ス

友人某ノ洋行スル余送リテ港上ニ至ル將ニ錨ヲ  
拔ントス余謂テ曰ク今也開化ノ世タリ男兒万里  
ニ雄飛シ志ス所ヲ成ス可シ豈ニ鬱々トシテ矮室  
ニ雌伏スベケン耶ト遂ニ袖ヲ分ツ佇立ノ際汽船  
波ヲ破ツテ去リ復帆影ヲ見ズ

紀事第三

此部出ス所ニ倣ヒ他人ノ事交際間ノ見ル處傳聞上ノ獲ル所其美談トスヘキ者筆ニ騰セ姓名ヲ存スヘシ過惡ノ事ノ如キハ寓言ノ題ニ非レハ紀スルコト勿レ

○小學生徒勉吉ノ事ヲ紀ス

勉吉英敏ニシテ學術ヲ務ム試験ノ期至レトモ復習常ノ如クシテ必ス優等ノ科ニ上ル人其故ヲ問ヘハ曰ク余毎日ノ學習ニ深ク注意スル而已

○善書人墨軒ノ事ヲ紀ス

墨軒翁善書ヲ以テ聞ユ作ル所ノ字遒美ニシテ軌範アリ嘗テ曰ク我字ヲ習フコト他人ヨリ多カラス但急遽ノ間ト雖モ未メ嘗テ謾ニ筆ヲ下サス故ニ我字讀ム可ヲサルハナシ

○農父力藏ノ事ヲ紀ス

農父力藏常ニ稼穡ヲ力ム穀ヲ收ルコト多シ曰ク余他人ヨリ一日ノ勤ムル所一分ヲ加フ一分ノ湊ル所秋ニシテ此豐饒トナル也

○教師良太郎ノ事ヲ紀ス

我郷學校教員良太郎ト稱ス善ク生徒ヲ導キ教則甚正シ授業ノ際容色ヲ嚴ニシ聲氣ヲ端ニシテ忠

愛ノ情鬻然トシテ發生ス故ニ生徒畏レテ愛スル  
コト父母ノ如シ善ク生徒ヲ導ク本校毎日ノ授業九時ヲ始  
トシ必先タツコト三拾分ニ上校シ未タ嘗テ一分  
ヲ遅クセス故ニ生徒敢テ規則ヲ犯サス教則甚正シ此人  
實ニ良太郎ノ名ニ負カス

○商人節藏ノ事ヲ紀ス

富商節藏モト原傭人タリ既ニ富ミテ日用ノ費ス處ニ  
十五錢ニ過サス其妻儉ニ過クルヲ嘆ス節藏ノ曰  
我若シ傭人ノ舊ナラハ汝如何ス可キ妻復言フ能  
ハス蓋シ傭人ノ獲ル一日ニ二十五錢ナリ

○說教師清太郎ノ事ヲ紀ス

說教師清太郎說諭ヲ善クス說所婦女兒童モ亦領  
解ス嘗テ敬神ノ條ヲ演シテ曰ク乳兒ヲ育スル者  
手拍ヲ手拍ナト云ヒテ手ヲ拍タシムルハ手ヲ拍  
テ神ヲ拜セシムル也地ノミ地ノミト云ヒテ拳ヲ  
合セシムルハ地球ノ形ヲ教フル也天旋リ天旋リ  
ト云ヒテ双手ヲ旋轉セシムルハ天ノ地球外ヲ周  
圍スルヲ知ラシムル也蓋シ天地間何物カ神ノ惠  
ニ非ラン須ラク神ヲ敬スヘシト云フ意也ト懇說  
スルコト是ノ如シ聽者悅服シテ去ル

○英兒敏吉ノ事ヲ紀ス

一老人群兒ノ才ヲ試テ曰ク海中ニ舟遊スル者ア

り遠ニ天色晦冥夜ノ如シ是レ舟ノ鯨口ニ入ルニ  
由ル而シテ遊フ者知ラス燧ヲ鑛リ燈ヲ點ス鯨乃  
首ヲ俯セ舟ヲ吞メリト傳フルハ豈ニ奇事ナラズ  
乎ト敏吉曰ク是レ虚説ナリ燧ヲ鑛リ燈ヲ點スル  
コト孰レカ見テ孰レカ傳フルト老人其英才ナル  
ヲ嘆ス

○門地ニ誇ル者ノ事ヲ紀ス

一貧士姓ハ坂田自ラ門地ニ誇リテ曰ク我ハ源氏  
ノ四天王金時ノ裔也友人笑テ曰ク我祖審ニ知ル  
可ラスト雖諾册二神ノ裔也子カ山姥ニ出ルニ勝  
レリ

○妻ヲ畏ル、人ノ事ヲ紀ス

一士人アリ甚家婦ヲ畏ル嘗テ酔テ隣家ニ至リ故  
言シテ止マス蓋シ先ツ家ニ歸リ婦ニ叱セラレ乃  
隣人ニ不平ヲ漏ス也

○算師ノ事ヲ紀ス

算師ニ問フ者アリテ曰ク數學ノ遺忘シ易キ如何  
シテ可ナラン算師ノ曰ク二ヲ四ニ乘シテ八トナ  
リ二ニテ六ヲ除シテ三トナルト云フ如ク諸術ヲ  
領解セヨ

○詩人ノ事ヲ紀ス

詩ヲ善クスル人アリ或人問フ詩ノ云フ處何事ソ

ト答ヘテ曰ク花開ケリ嗚呼美シ月出テタリ嗚呼  
明ケント云フニ過キズ

○烟艸ヲ好ム者ノ事ヲ紀ス

烟艸ヲ好ム者アリ坐シテ吹キ立テ吹キ晨コトニ  
臥シナカラ吹ク一晨枕邊ニ爐火燼滅ス細君呼へ  
トモ來ラズ蹶然トシテ起キ火ヲ取り復臥シ衾ヲ  
擁シ烟ヲ吹ク例ノ如クシテ然後起キタリ

○蛛ヲ畏ル、者ノ事ヲ紀ス

蛛ヲ畏ル、者アリ之ヲ見レハ縮然トシテ敢テ動  
カス一友紙ヲ以テ其ノ形ヲ成シ淡墨之ヲ染ム宛  
然タル蛛也之ヲ彼畏ル、者ニ抛ツニ畏ル、者愕

然トシテ僵レ顔色土ノ如シ遂ニ疾ヲ獲タリト云  
フ

○花ヲ挿ム人ノ事ヲ紀ス

梅花ヲ瓶ニ挿ム者アリ窈窕タル態ヲ成セリ其師  
來リ見テ曰ク善ク挿メリ然レトモ是レ桃花ノ態  
ナリト蓋シ梅ハ必槎柯タルヲ能トスル也

○歌人ノ事ヲ紀ス

歌人數名會ヨリ歸ル一名別レ去レハ餘衆之ヲ譏  
リテ曰ク疎ナリ又一名ニ別ルレハ曰ク拙ナリ終  
ニ一名ト爲リ盡ク餘衆ノ技ヲ誹ル從奴ノ曰ク奴  
恠ムコトアリ歌ハ遠地ノ人最巧ナル歟



○優人雛助ノ事ヲ紀ス

優人雛助ナル者赤馬關ニ至リ劇場ヲ開キ其名大ニ鳴ル博多ノ人往テ招ク雛助三里ノ海路ヲ危ミ肯テ來ラス招ク者ノ曰ク僅々タル海路西國十六諸侯渡ラサルナシ汝何ソ懼ル、雛助ノ曰ク十六諸侯ハ十六名アリ雛助ハ日本ニ一名豈ニ比ス可シヤ賤業ノ輩ト雖絶技アル者ノ自ラ重ニスル是ノ如シ

○車夫ノ事ヲ紀ス

人力車ニ乘リ花街ニ赴ク者アリ車夫牽キ且語ツテ曰ク客ハ車ニ乘リテ娼妓ヲ買フ奴ハ車ヲ牽キ

テ二親ノ口ニ糊セントス天淵ト謂フベシ車上ノ人大ニ愧ツ

○狡童ノ事ヲ紀ス

狡童アリ余園ニ入り屏息累迹用心スルコト深ク紅熟スル菓實ヲ採ル既ニ衣袖ニ盈テ狂奔シ去ント欲シ樹根ニ躓テ僵レ失聲シテ曰ク嗟乎痛シ凡ソ事猶終リヲ慎マサレハ成ラズ窃盜ノ事ト雖亦取リテ戒トスヘシ

○舊乞人ノ事ヲ紀ス

一少年遊蕩ニ耽リ嘗テ乞人ト爲レリ開化ノ世ニ及ンテ平民ニ復セリ或時友ニ謂テ曰ク我人ニ非

ル者タルトキ羞耻ノ何物タルヲ知ラザリシ今ハ  
人ニ復シ羞耻ノ心舊ニ復ス是レ開化ノ澤ナリ

○力人芳野川ノ事ヲ紀ス

力人芳野川ナル者其妻一男ヲ舉ク狀貌孱弱乃父  
ニ肖ス妻常ニ以テ憂トス力人曰ク我一食ニ數升  
米一飲ニ數升酒而シテ田ヲ耕スハ猶牛馬ノ力ヲ  
借ル故ニ力人トナレリ此兒幸ニ常人タリ必小學  
校ニ昇ラセ有識ノ人トナサン

○養ヲ春ク者ノ事ヲ紀ス

一人杵ヲ持シ一人手ヲ伸ヘ白中ノ養ニ向ヒ杵ト  
手ト一上一下ス其神速ナル看レトモ見エス養ヲ

製スル事スラ得心應手ノ妙ニ至レハ觀テ樂ムベ  
シ

○勇士ノ事ヲ紀ス

鎮臺兵某好テ書ヲ讀ム人ノ曰ク子既ニ臺兵タリ  
明日ノ死モ知ル可ラス何ソ讀書ヲ用井ン臺兵曰  
ク我武技ヲ演スルハ操練ニ在リ心膽ヲ養フハ誦  
讀ニ在リト此人戰爭ユトニ必功ヲ立ツト云フ

○良將ノ事ヲ紀ス

將帥某戰フ毎ニ果決ヲ以テ奇勳ヲ立ツ然シテ常  
ニ曰ク我大職ナリ稱ヒ易カラスト蓋シ居常ノ易  
カラスト云フ心即戰場ニ在リテ果決ナル心ナリ

○多力ニ誇ル者ノ事ヲ紀ス

一壯夫自ラ多力ニ誇ル曾テ鐵棍ヲ杖ツキ深山ヲ過ク一少年ニ逢ヒ試ニ之ヲ持タシム少年直ニ取リテ之ヲ屈シ弓ノ如クナラシム壯夫色ヲ失ヒ是ヨリ復勇力ヲ言ハズ

○百歲翁ノ事ヲ紀ス

百歲翁アリ強健比ナシ自ラ言フ我四不過アリ飲食度ヲ過サス勞逸度ヲ過サス淫欲度ヲ過サス思慮度ヲ過サス是レ長命ヲ得ル所以也

○酒徒ノ事ヲ紀ス

酒人某病アリ醫師ノ曰ク是レ過飲ノ致ス處也某

曰ク然リ今ヨリ觀音ニ誓ヒ復飲サラントス醫師曰ク何ソ天神地祇ヲ捨テ佛ニ誓フ某ノ曰ク神祇ニ誓フテ破ルトキハ罰ヲ受ク故ニ慈アリ悲アル佛ニ誓フ也ト醫師大ニ笑フ

○好事家ノ事ヲ紀ス

好事ノ僧アリ大ニ西行法師ヲ慕フ破笠ヲ戴キ敗椀ヲ持テテ藁筵ニ坐セリ邏卒之ヲ見テ田夕汝乞食ニ非スヤ僧ノ曰ク否我笠ハ西行禰立澤ニテ晚露ヲ掩ヒシ處我筵ハ西行坐テ富士岳ヲ望ミシ處我椀ハ西行柳陰清泉ヲ酌シ處也邏卒其乞食ニ類スルヲ以テ戒メテ復ヒスルコト勿ラシム

○盜賊ノ事ヲ紀ス

盜人酒家ニ入り先ツ酒ヲ盜飲シ己ムコト能ハス  
一小室ニ入りテ臥ス覺ルニ及ヘハ天已ニ明ケタ  
リ回視スルニ二湯三平ノ假面アリ乃取り面ヲ掩  
ヒ突然トシテ遁ル酒家一驚スレトモ蹤迹ヲ見ス  
盜人後捕ヘラレ自ヲ其事ヲ説クト云フ

○貞婦ノ事ヲ紀ス

貞婦年少ニシテ寡居ス其姑甚猫ヲ愛シ牝牡ヲ畜  
フ貞婦其意ニ承順シ亦之ヲ愛スルコト甚シ然レ  
トモ唯其牝ハ膝上ニ昇ラシテ其牡ハ昇ルヲ許サ  
ス

○義僕ノ事ヲ紀ス

富商ノ家一僕アリ商業ヲ佐ルコト勤敏ニシテ廉  
正ナリ主人嘗テ賞金ヲ與ヘテ曰ク汝ノ勤勉ト廉  
潔トヲ賞スル也僕ノ曰ク幸甚幸甚但主翁ノ言ニ  
勤勉ト云フハ奴辱シトス廉潔ト云フハ等輩皆然  
リ唯奴一人ノミニ非ス敢テ辭ス

○孝子ノ事ヲ紀ス

我郷ノ孝子双親ヲ愛敬スルコト天性ニ出テタリ  
小學校ニ在リテ日本地誌畧ヲ復讀スルニ越後ノ  
部ニ至リテ親知ラズ子知ラズト云フヲ闕キテ讀  
マス時ニ七歳ナリ是レ曾子車ヲ勝母ニ回スト同

一美談ナリ

紀事例第四

此部出ス所皆歴史中ノ事ニ係ル教師之ヲ口授スレハ生徒筆授ス其法例ヘハ屋島ニテ軍ガアリタル折ノ事デゴサル平家ノ船ニ一本ノ竹ノ先キニ扇ヲクツケ船ニ立テタ那須與一源氏ノ大將義經サンノ言付ケヲ畏ツテ一矢ニ扇ヲ射リ落シテゴサルト云ヘハ生徒

屋島ノ戦ニ平氏扇ヲ竿頭ニ着ケ之ヲ船ニ立ツ源氏ノ士那須與一義經ノ命ヲ受テ弓ヲ響キ一發シテ扇ヲ墜セリ

ト是ノ如ク紀ス

○仁徳帝ノ事ヲ紀ス

仁徳帝嘗テ高臺ニ上リ炊烟ノ稀レナルヲ望ミ人民ノ貧困ヲ知り課租ヲ免シ窮乏ヲ賑シ玉ヘリ數年ノ後復臺ニ昇リ炊烟盛ンニ起ルヲ見テ曰ハク朕富リト蓋シ百姓ノ富ヲ以テ一身ノ富トシ玉フナリ

○鎌足公ノ事ヲ紀ス  
中大兄皇子法興寺ニテ蹴鞠シ玉ヒ偶々其靴脱セ  
リ鎌足公其處ニ在リ靴ヲ取リテ奉ス皇子跪テ受  
玉ヒ是ニ由リ親近シ共ニ皇室ヲ中興シ玉ヘリ皇  
子ハ即中宗天智天皇也

○源義家朝臣ノ事ヲ紀ス  
彌河天皇瘧ヲ患ヘ源義家ニ詔シテ直夜セシメ玉  
フ義家黑弓ヲ把リ弦ヲ彈スルコト三タヒ曰ク源  
義家此ニ在リト天皇ノ病立トコロニ愈ユ  
○楠正成朝臣ノ事ヲ紀ス  
正成ノ千磐ヲ守ル輩人ニ甲ヲ被ラセ伏兵曉霧

ニ乗シテ聲ヲ發シ賊ヲ誘ヒ數射シテ退ク賊進  
テ輩人ニ逼レハ則大石己ニ其頭ヲ碎ケリ

○豊臣秀吉公ノ事ヲ紀ス  
奴與助刀劍ヲ佩ヒ木下藤吉ト稱シ織田信長公ノ  
出ルヲ伺ヒ自ラ名ノリ仕ヘテ求ム信長公笑テ曰  
ク汝ノ顔猴ニ似タリ思フニ其心敏捷ナラシ收テ  
攀鞋奴トス此奴後大ニ用ヰ被ル即豊臣秀吉公也

○貝原篤信ノ事ヲ紀ス  
貝原篤信鴻儒ヲ以テ聞ユ京ニ往還スルキ船ヲ同  
スル一少年學事ヲ談シ旁ヲ人ナキガ如クシテ篤  
信聞カサル者ノ如シ船ヲ下ルニ及ンテ各々相名

イフ少年始テ篤信タルヲ知り羞縮シテ身ヲ容ルニ所ナキカ如シ

○牛董

牛董多クノ間重力ノ原由ヲ推考シ未タ確説ヲ得ズ一日林橋ノ樹邊ニ遊ヒ其實ノ目前ニ墜ルヲ見テ地球ノ引力ニ關スルヲ曉レリ

○日納爾

日納爾少年ヨリ醫ヲ學ヒ嘗テ一村女ノ我牛痘ヲ傳染セリ痘瘡ヲ患ヘスト云フヲ聞キ種痘ノ法ヲ發明セリ誹ル者種痘セシ兒ハ牛面ニ似ルト云ヒ牛角ヲ生スト云ヒ牛吼ヲ爲スト云ヘトモ自ラ信

シテ動カズ終ニ其法ヲ後世ニ傳布セシムルニ至レリ

○翁媪ノ事ヲ紀ス物語本

往昔翁媪アリ翁嘗テ山ニ蕪シ嗜シテ溪水ヲ飲ム飲ムニ隨ヒ老態退キ壯體トナリ既ニシテ歸レハ媪之ヲ羨ミ亦山ニ入ル翁其久シテ歸ラサルヲ怪ミ追ヒ探レハ空ク遺衣アリ翁悲哀シテ收テ歸ラント欲レハ衣中ニ一嬰兒アリ蓋シ溪水ヲ過飲スル也

○桃太郎ノ事ヲ紀ス赤本

昔々ノ世桃太郎ト云フ者アリ父母ニ別ヲ告ケ魔

界ヲ伐ナ歸途焦堯氏國ニ過リ豆大ノ人物ヲ珍ト  
シ其武士ヲ捕ヘ藥盆ニ收メテ歸レリ既ニ歸リ父  
母ニ土宜ヲ獻ス盆ヲ開ケハ豆大ノ武士万金丹ニ  
踞テ屠服シテ死セリ

評ニ曰ク焦堯氏國割腹ノ事アルトキハ武將  
ノ政治ナルコト知ヌ可シ我日本王化ヲ被ラ  
ハ庶クハ此風習ヲ除カン

紀事文例大尾

明治十一年五月五日御届  
同年 五月 出版

著述人

福岡縣士族

宮本茂任

第一大區一小區  
福岡東小姓町

出版人

同

古賀男夫

同區福岡橋口町



發賣書肆

久留米三本松町	共	耕分社
同	赤司平次郎	
同通一丁目	山本繁太郎	
同米屋町	菊竹儀兵衛	
小倉京町	宮城勇	
福岡簀子町	江藤正澄	
同	林斧助	
同	古野支店	
同本町	久田志滿	
同橋口町	山崎啓八	
博多中嶋町	舟木彌七	